

令和3年度第2回印西市ふるさとづくり運営会議 会議録

- 1 開催日時 令和3年12月23日(木)
- 2 開催場所 書面会議
- 3 出席者 坂巻栄一座長、五十嵐盛春委員、乾真一郎委員、
中山亜矢子委員、奥田信康委員、河村剛光委員、
本多伸好委員、芳賀一男委員、高橋徹委員、
菰岡翼委員
- 4 事務局 シティプロモーション課
- 5 傍聴者 ー
- 6 議 事

(1) ふるさとづくり運営基金活用事業について

- 7 協議結果 議題について承認する。(承認8名、無回答1名)
- 8 委員からの意見等

委員 A 印西市の存在を全国に発信し、まず、認知していただくことは、印西市に関心をもち、その魅力を探し、発見してもらうための第一歩と考えています。

もちろん、子どもから青少年、成人、年配の方などあらゆる世代に訴えていくことが大切です。

そのためには、あらゆる媒体を駆使してPRしていくことが必要です。インターネット、紙ベース、テレビ、街なかの広告物など。

そのような観点からは、第1回会議の資料7「印西市のシティプロモーションについて」のなかで説明されている様々な推進事業は理解できます。

令和4年度のふるさとづくり運営基金充当についても、印西市という行政ならではの事業であり、その実現について期待するものです。

なお、事業の実施にあたっては、無理を避け、経費のむだを省いて臨んでいただくことを強く要望します。無理は、必ず後で問

題の発生につながります。経費のむだを省くことは、言うまでもありません。

併せて、決められた前提のなかで構いませんが、できるだけさまざまな方のアイデア、意見などを聴いていく姿勢で実施に臨んでいただけたらと希望いたします。

委員 B 順天堂大学スタッフにイオンモール広場にてスポーツイベント等を実施し地域を盛り上げていきたい。

委員 C 印西市が活性化すると思います。

委員 D 順天堂大学体操部には、東京オリンピック2020体操競技で金メダルを獲得された橋本大輝選手などが所属され、今後の国内外での大会でもさらなる活躍が期待される。これらの活動を支援することで、印西市の知名度向上につながることも期待できるので、ふるさとづくり運営基金活用事業の用途として、意味のある使い方の一つであると考えます。

一方、投資効果という観点からの妥当性、有効性についての検証も今後必要になると考えます。選手のユニフォームに印西市のロゴを掲載し、競技時の映像や写真として映るだけでは、瞬間的なPRとなる懸念がある。

応援している選手が、良い成果を得られた際は、その結果を応援している印西市としても一緒に喜びを伝えると共に、市民や印西市に関心のある人たちに触れるメディアにおいて発信素材として活用する工夫を合わせて実施して頂きたい。

また、主目的に「移住の促進」を挙げているが、既に約11万人の市民、特に若者に対し、「印西市の応援する順天堂大学が印西市にあり、オリンピックでの体操競技で金メダルを取った」など周知することで、在住市民のシビックプライドの向上も目的の一つに加えるべきと考えます。

委員 E 今後の連携や効果を期待します。

委員 F 旬なタイミングで広告を出すのは有意義と考える。

委員 G 議題についてどちらとも判断が出来ない。全体的な連携の説明を求めます。

大学との連携については、もっと多くの意見交換が必要ではないかと感じました。

委員 H 「ふるさとづくり」に繋がる印西市のブランド価値向上は中・長期的な視点で取り組むべき課題だと考える。その点で地元の大学を応援し、そのタレントや知財を活用することは有効なプロモーション施策になると考える。順天堂大学は印西市にキャンパスを有するスポーツ健康科学部以外にも医学部、看護学部といった日本の高齢化社会の課題解決に貢献する研究領域を網羅している。自然環境に恵まれたイメージに順天堂大学の健康科学の資産を活用することで印西市の魅力をさらに強力に発信する施策が期待できるのではないだろうか。

ふるさとづくり運営会議委員に順天堂大学代表委員の方がいらっしゃる点が利益相反にならないのか気掛かりなのと、今後スポーツコンテンツを活用したマーケティング価値が高まり、広告料が高騰する場合に備えて広告効果測定に対する研究が必要ではないだろうか。

委員 I ただ要望として、行政ベースだけでなく商工会や観光協会などを巻き込んで進めていかないと、ただのお金の繋がりだけで、持続性がなくなってしまうので、せっかくスポンサーといった繋がりを市民にも波及させて当事業をさらに発展させてほしい。

デザインの要望として、エビデンスに基づいた戦略的なデザイン案としてご提案させていただきますので、どうぞ参考にして下さい。

以上

令和3年度第2回印西市ふるさとづくり運営会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和4年1月18日

印西市ふるさとづくり運営会議座長 坂巻 栄一